

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる環境を提供し、思いやりのある人物を育成する学校をめざす。

2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。

3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

ア 教職員からの積極的な挨拶・声掛け等をとおして安心できる環境づくりに努め、すべての生徒に対して規範意識・人権意識の向上を図る。

イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。

ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。

エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5 95.2%, R6 95.9%, R7 94.0%)

※年間遅刻者延数前年度比10%の減少を図る。(R5 1228, R6 1502, R7 1733)

※部活動加入率を令和10年度に60%以上(R5 68.4%, R6 58.0%, R7 62.0%)とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和10年度に80%以上とする。(R5 85.0%, R6 76.3%, R7 79.8%)

※海外語学研修および国際交流事業を積極的に展開していく。また、より多くの生徒が関わるができる取り組みとして実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見を令和10年度に80%以上とする。(R5 78.4%, R6 69.5%, R7 83.6%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障する

ア 実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす。

イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。

ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。

エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全進学合格数に占める4年制大学合格者を令和10年度まで55%を維持する。(R5 59.0%, R6 67.3%, R7 93.9%)

※学校幹旋の就職内定率100%を維持する。(R5 100%, R6 100%, R7 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5 95.9%, R6 94.9%, R7 95.1%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任・SC・SSW等との面談や対応がスムーズに活用できる体制を構築する。

イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。

ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取り組み及び緊急避難対応等への取り組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和10年度に70%以上とする。(R5 64.3%, R6 67.2%, R7 75.3%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5 94.8%, R6 93.1%, R7 94.2%)

※障がいの有無にかかわらず、配慮の必要な生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。

イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。

ウ 1人1台端末および全教室ICT機器設置の環境を積極的・効果的に活用し、より魅力ある授業の取り組みを進める。

エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取り組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和10年度まで80%以上を維持する。(R5 86.1%, R6 86.2%, R7 88.9%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和10年度まで90%以上を維持する。(R5 96.7%, R6 91.2%, R7 98.1%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

ア 社会の変化に対応し「学び続ける」意識の共有化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善をさらに推進する。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(R5 108, R6 231, R7 218)

※経験年数の少ない教員の技量向上をめざす(採用後3年めまで対象の)新三研修を継続し、それを全体研修へと発展させる。

(3) 教員が自らの働き方を見直し、指導力を磨き、知識や想像力、人間性を高めることにつなげる。

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

イ ワークライフバランスの推進を図る。

※会議の回数を減らす等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間等を前年度実績以下に抑える。

※年間の時間外在校等時間を720時間を超える教員数をゼロにする。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

府立高石高等学校

ア	【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。
イ	【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、中学校との連携を強化する。
ウ	【学校を外に開く】高石市や近隣自治体の自然災害に関する事業連携を継続し、地震・津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。
エ	【学校を内に開く】学校説明会、HP 等を活用して、積極的な情報発信に努める。
オ	【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。
※地域交流が活発であったか。	
※生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(R5 113, R6 105, R7 85)	
※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 800 名以上とする。(R5 808, R6 600, R7 720)	
※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R5 94.7%, R6 91.7%, R7 91.9%)	
※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 90%以上を維持する。(R5 91.5%, R6 90.2%, R7 90.2%)	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取組む	(1) ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の方針のもと、朝の読書を行う。朝の読書の習慣をつけるために、教員は教室に入り、生徒と一緒に本を読む期間を設ける。また、家に本がなく読書習慣を持たない生徒も増えているため、学級文庫の充実を毎年図る。読書習慣がない生徒のために各クラスで読みたい本の希望を募ったり、最新の売れ筋ランキングの本や映画化した本などの話題書を置いたりするなどし、読書のハードルを下げる取組を行う。 ・遅刻者数を減らす。そのために、遅刻者への説諭の回数を増やすなど丁寧な指導を行い、学校と保護者との連携を深める。	(1) ・入学当初から勧誘することで部活動入部率 55 % 以上を維持する。 [62.0%] ・国際交流の機会 2 件以上。[2 件] ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見を 80%以上とする。 [83.6%] ・年間遅刻者延人数を前年度以下とする。 [1733 名]	
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。	(2) ・4 年制大学合格率を、実人数で 80% 以上とする。 [93.9%] ・学校幹旋の就職決定率 100%を維持する。 [100%] ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」肯定的意見 90%以上を維持する。 [95.1%]	
	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SC とともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。 ・防災・減災への積極的な取組を図る。また、これらの安全教育や危機管理等の取組を通して、外部組織・団体との交流や支援活動等を推進し地域貢献を図る。	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする。 [82.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60%以上を維持する。 [75.3%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 90%以上を維持する。 [94.2%] ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を 3 回以上学校内外で実施する。 [4 回] ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施する。	

府立高石高等学校

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校	(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる (3) 教員が自らの働き方を見直し、指導力を磨き、知識や想像力、人間性を高めることにつなげる	(1) ・家庭等での学習を定着させる。そのために早期に進路目標を決定させる機会をもうけ、家庭学習につなげる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。 (2) ・授業アンケート結果及び校内外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。授業見学推進のため、教員1人当たりの校内授業見学回数を3回以上実施するように全教員に呼びかけ、授業見学時に作成する「ほめあげシート」を管理職と授業担当者の両方に提出するように求める。 ・採用後3年めまでの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 (3) ・「府立学校における働き方改革にかかる取組みについて」に沿った取組みや学校部活動方針の遵守し、教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の縮減を行う。	(1) ・1日平均学習時間を前年度以上とする。[25分] ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」肯定的意見80%以上を維持する。[88.9%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見90%以上を維持する。[97.1%] ・生徒向け学校教育自己診断「1人1台端末の効果的活用」肯定的意見を前年度以上とする。[69.8%] (2) ・教員相互の授業見学を80%以上とする。[65.4%] ・全教員の延べ校内外授業見学総数200回以上を維持する。[218回] ・「新三研修」(3回)に採用後3年めまでの教員が全員参加する。 (3) ・会議の回数を減らす等の工夫をすることによって、2月末時点までの月平均時間外在校時間を前年度実績以下に抑える。[28時間48分] ・年間の時間外在校等時間を720時間を超える教員数を早急にゼロにする。	
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく	(1) 【学校を外に開く】 ・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。 ・高石市と連携して防災訓練などの取組みを実施する。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施する。 ・学校情報の発信を行う。 ・創立50周年に向けて準備をすすめる。	(1) 【学校を外に開く】 ・年10回以上、出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る。[10回] ・高石市や地域企業等と連携した「探究活動を行ったり、成果発表を行う機会などを作る。 ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。[85件] 【学校を内に開く】 ・学校説明会、体験入学やクラブ体験等の参加延べ人数を合計700名以上とする。[720名] ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見90%以上を維持する。[90.2%] ・創立50周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ。[3回]	